

中田かわら版 1月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます



■中田連合自治会会長 上原 敏博さん



皆様には新年を穏やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年 5 月、中田連合自治会の会長を受けさせていただき、新しい体制にて諸行事の運営にあたっております。多くの方々が脈々と築いてこられたこの伝統ある自治会は誠に人の和に強く結ばれた自治会の姿であり、今さらながらその努力に敬服しております。

泉区の人口が減りつつある中で、中田地区だけが人口の増加があり、特に子育て世代の増加が著しく、学校教育の充実さと地域住民の様々な協力により、文字通り安心・安全な街づくりが出来つつある事と実感しております。昨年 12 月、中田小学校、東中田小学校のマーチングバンドが両校揃って全国大会に出場したことは、大変大きな意義があり、努力すれば必ず報いられる

ことの証明として、子どもたちに勇気と大きな自信を与えてくれたことと思います。

また 7 月、中田地区地域福祉保健推進委員会（上原敏博委員長）が体制を強化し、再スタート。高齢者から子どもたちまで行き届いた福祉活動が出来ることとなりました。

必ず近い将来、起こりうると思われる大きな災害に対し地域防災の確立をはかり、防災拠点委員会の統一された活動を中心として組織づくりが出来たことは大きな前進と思います。

昭和、平成と続いた時代から、本年は新しい年号が始まり、時代に即した活動が大きく前に進むのではないかと期待しております。

2 月 2 日には、泉公会堂で新しい年号をお祝いし、歓喜をもって迎えよーと、ベートーベン作曲交響曲第 9 番「合唱」を総勢 138 名の区民合唱団により歌われるのも楽しみです。

本年も皆さまのますますのご健勝を心より祈念申し上げます。

新年あけましておめでとうございます

■かわら版編集委員 代表 佐々木 弘美

この一年間のご愛読ありがとうございました。中田地域のニュースや地域の方の紹介など編集に苦労した一年でしたが、地域を知ることには大変勉強になり感謝しております。今年も愛される「かわら版」を目指し、地域ニュースをお届けいたしますので、ご期待ください。

©宮田 貞夫 山木 重樹 木下 良江 松本 正 井上 昌司 葛西 健一

～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

2月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923



【囲碁将棋大会】

日時：2月3日(日)

参加費：¥500- (昼食代)

受付：8:30 (9:20 開会式)

対象：小・中学生・一般 (高校生以上)

場所：中田町会館 2階

申込：各町内会・自治会文化部長まで

・今年の名人は誰の手に！恒例の囲碁将棋大会を開催します。

■中田の歴史記念物<2>

山神社 (やまがみしゃ) 戸塚苑

葛野小学校近くに鎮座する歴史ある山神社。中田中村にある御霊神社や中田寺と比べると、ずっと小さいが地元では存在感のある有名な神社である。名前から察して祭神は大山神と考えられるが詳しいことは分からない。ご神体として元徳2年(1330年)の板碑が社殿前に建立されていたが盗難により今はない。仮にそれがこの神社と関りがあったとすれば、かなり古い歴史を持つことは確かだ。

毎年、3月17日と11月17日の2回、地元農家の15軒(森 俊男代表)の人たちによって祭りごとが行われている。春3月は種子を蒔き豊年を祈り、秋の11月は豊作を祈願・感謝することから五穀豊穰の願いを込めた行事である。農家の人に聞いても、いつのころから始まったか分からないという。「とにかく相当古い」とは森 靖二さんの話である。これほどユニークで伝統のある山神社だが、行事の内容を書いた記録もない。ご開帳した中にA4サイズの説明書きが張ってあったが、これは『いずみ いまむかし』(泉区小史、平成8年刊)184ページのコピーだった。

午前8時半。男女10人がすでに作業に取り掛かっていた。5か月ぶりの本堂内はほこりやチリで大分汚



れている。箒やはたきでほこりを払い、雑巾で水拭き。お賽銭箱から細かい硬貨を数えたり忙しい。一方、男性は高い木に登って枝切りや境内の草取りなど。中でも力仕事は4メートルを超す^{のぼり}幟を2本建てる作業は6人がかり。鳥居の前に、立て台を埋め込む深い穴を2か所掘らなければならない。終わったところで鳥居にしめ縄を張る。本堂では4本の掛け軸が左から「大地神」「御雲大神」「山之神大神」「白笹稻荷大神」の順で吊り下げられた。すべてが整ったところで全員が正面に向かい2礼2拍1礼して11時30分に終わった。

神社の横の僅かの空き地にゴザを敷いて茶菓子、果物を食べながら歓談、暫し時間を楽しむ。三橋ミツエさん(79)によると、昔、夜には自宅に田舎芝居を呼んでにぎやかで、盛大だった。芝居をやるくらいだから家は相当広く大きかったという。現在の社殿は三橋昭夫氏の敷地にあったものを昭和12年、いまの地に再建したもの。明治後期からおおよそ60年後の移転だった。明治になって寄宮令が發布されたとき、ここだけが残り三橋昭夫氏の敷地内の稲荷社にご神体を安置し、15軒の人々から代々受け継がれてきた。(宮田貞夫)

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！